

「注意して、よく見なさい」

さくらが咲いて、散って、園庭は雪が積もったようです。子どものいない園庭は小鳥たちの天国です。めじろ、ほおじろ、むくどり、おながと次々やってきて、花の蜜を吸います。鳥たちは間もなく子育ての季節を迎えます。そのために、花の蜜はきつと栄養満点なのでしょう。子どもたちが餅つきをしたころ、さくらの枝の先端には鋭くとがっていて、小さな硬いつぼみがありました。それが次第にふくらんで色づき、見事な花の宴を開くまでになりました。

聖書の中に「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなた方の天の父は鳥を養ってくださる。」と書かれています。また続けて花についても言及して、「野の花がどのように育つか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花のひとつほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。」と言っています。満開のさくらと、その花にやってくる小鳥たちを見ると、本当にそのとおりだと納得します。

無力な小鳥たちや花に、神様は必要なものを備え、守り、時を与えてくださるのです。前段の聖書の言葉は「まして、あなたがたにはなおさらのことではないか。」と続きます。子どもたちを見ているとそれがよくわかります。小さかった2年前の春、頼りなかった1年前の春を思い出します。それが今は「大きい組」と呼ばれる春を迎えています。子どもたちは神様が与えてくださったすべての良いものをいただき、守られて、このときを迎えたのです。

「一体この子はどうなるのか」、「この子はこのままで大丈夫か」、「私の子育てはこれでいいのか」と、ご家庭は不安やあせりに駆られることがあったことでしょうか。これからもそのようなことに出会うかもしれません。でも、小鳥は刈り入れもせず、倉もたない。花は紡いだりしない。それでも必要なものが与えられ、最上の美を発揮する。まして一人ひとりの子どもは神様が愛しておられる、神様の子どもです。小鳥や花以上に、神様が良くしてくださらないはずがないのです。

せっかく子育てをするのですから、楽しんでできたらいいなと思います。楽しんでできる子育ての秘訣があります。その秘訣のキーワードも前述の聖書の言葉の中に隠されています。「空の鳥をよく見なさい。」「野の花がどのように育つか、注意して見なさい。」と書かれています。キーワードは「良く見る・注意して見る」です。注意してよく見ること、それが楽しむ子育ての秘訣です。「見れば見るほど不安になる。」とおっしゃる方もいるでしょう。ところが私たちは、見ているようでいて実は見ていないことが多いのです。自分の期待・願望や、疑いが、見る目を曇らせるからです。親の期待・願望をかなえてほしいという目で見ると、そうでないことばかりが見えてきます。心配や疑いが先に立ってしまうと、ヤッパリ！と思ってしまうことばかりが目につくのです。見るべきものが見えず、別なものばかりを見てしまうのです。

聖書が言う「良く見る、注意してみる」は、そこに神様の働きを見出す目で見るということです。子どもたち一人ひとりには神様の働きが豊かに実を結んでいます。それが本当に見るべきものなのです。それが見えてくると、子どもの素晴らしさが見えてきます。それが見えてくると子どもをうらやましくさえ思えてきます。子育てだってずっと楽しくなります。